

四谷の

千枚田だより



第249号

お田植感謝の夕べ

くみんなどで灯そう 千枚田、六月一日(土)、十九時、号砲を合図に開演。開催にあたり会長は「千枚田を守る耕作者は日々、獣害被害、天候不順などに悩まされ、その苦勞は並大抵ではない。大変ご苦勞様です。そして、本日参加いただいた皆さんと共に『つなぐ棚田遺産』にも認定された四谷の千枚田の栄を願う本日のイベントを心身

ともに堪能していただければ幸いです。また、梅雨時にも拘わらず、初回開催以来一度も雨降らずで継続できたことも郷土愛、皆さんの熱意の賜物」と、お天道様に感謝する。

本日は、衆議院議員の今枝宗一郎様、新城市長下江洋行様、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課長小松本慎二様、JA愛知東常務河合司様方々に挨拶を頂いた。どなたも千枚田を守る姿勢と地域の皆さんに敬意を表したお言葉を頂戴した。会場では保存会、地域住民、リピー

ターが一体となり丹精込めた焼肉、焼きそば、大はそり二鍋の豚汁、「棚田っ娘」自慢の五平餅も完売。初めての試みとして、何かとお世話になっている「八雲だんごの串ダンゴ」や「ヤマサちくわのキッチンカー」も出店、大好評であった。また、ギター奏者「ぜろレシア」の特別演奏が催しに華をそえた。嬉しいことにJA愛知東はシャトルバスの運行、役員奉仕。また、県職員のボランティアなどのお力を頂いた。

の誰しにも感動を与えた。終演に高橋孝行副会長はこの「催しが地域一体となり盛大に行われたことを喜び、村の活性に繋がれば幸いです」と結んだ。





収穫したら五平餅にして食べたい
 新城市立鳳来寺小学校の五年生九人が十七日、校区内にある四谷の千枚田で田植えを行った。児童らは鞍掛山麓千枚田保存会長の小山舜二さんから、田植えのやり方の説明を聞いた後、五月晴れの青空の下、大小二枚約100平方メートルの田んぼにミネアサヒの苗を植えた。
 児童らは三日前に田の土をならす「代かき」作業をしており、躊躇することなく素足で田んぼに入り、泥の感触を確かめながら田植えをした。田んぼには児童らが植えた苗が綺麗に並んだ。はじめて田植えを



体験した平賀遊一穂さんは「幅を考えて植えるのは難しかった」と言い、「収穫したら五平餅にして食べたい」と笑顔だった。担任の中島智之教諭は「自分たちなりに考え、真剣に田植えができた。自然の中での体験は子供たちを生き生きとさせ、良い学びになる」と話した。小山さんの指導を受けての田植えは同校統合前の旧連谷小学校の時から約二十八年続いている。田植え後は、観察や草取りなどをして稲刈り、脱穀などの作業を体験し、五平餅やおにぎりなどにして味わうという。

〔東日新聞五月十八日より転記〕
 写真上 代掻きとは言え、まるでドロドロ遊びだ。田んぼが狭く、鍬や備中での代掻きは危険なため、初

めは円陣をつくり「後ろの正面だあれ?」など、リズムに合わせて足踏みで泥をかけあう程度であったが、次第にエスカレート。ドロドロの中を泳いだり、寝そべる始末。山間地の学校ならではの楽しさ(思い出づくり)と自ずと微笑んだ。
 田植えには、(舜)を取り囲み「神様お願いします」と全員が手を合わせて拝んだ。:おいおい、まだ、生きておるだに:と、大笑い。どうも、やる事、成すことすべてが、事前の子供たちどうしで打ち合わせ済みのようだ。瞳がいたずらっぽく、わくわく感がバレーバレーで、可愛い。
 田植えの様子は十七日、NHK「まるっと」で放送された。

田の草取り

六月六日、豊橋調理製菓専門学校(学生二十七名)は五月九日に植えた早苗の草取りに勤しんだ。
 実習田に植えた早苗は、ところどころ、植えられていない畝(うね)や、曲がりくねって植えられたところが多々見受けられた。これは、田植え前の四月二十九日に四畝の急斜地を滑落、上半身負傷で身動きが不自由のため、例年のように手直しの余裕がなかった結果である。例えば、稲二株で飯茶碗一杯とすると、かなりの減収になる等々、一粒のコメの大切さを説いた。
 田の草取りは四班に分かれ真剣に取り組んだ。また、生育調査も実施した。

毎年、田の草取りの後は梅取りを行っていたが、今年は蜂が飛ばないうちに開花(受粉期)してしまい梅がない(全国的に不作)ため、急遽、身平橋集會場でイノシシ、ニホンジ

カ、サルなどの獣害被害や、その対策をパワーポイントで学習した。



ビオトープ生きもの調査

五月二十二日、横浜ゴム新城工場生物多様性保全グループ(十五名)はふれあい広場横のビオトープの生きもの調査を実施。採取したオタマジャクシやカエル、ヤゴなどを図鑑やグーグルレンズで検索、記録後はリリースした。

行 令和六年六月十五日
 鞍掛山麓千枚田保存会
 発 文 責 小山舜二